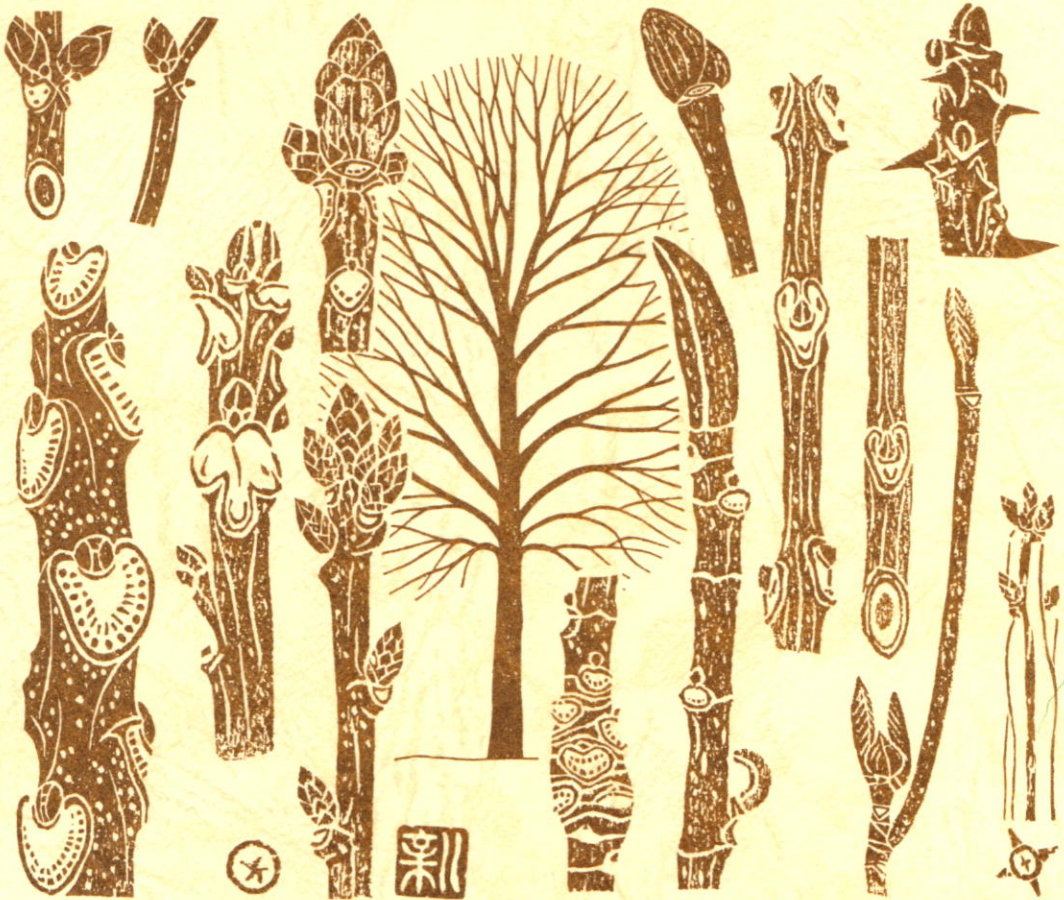


(社)日本雪氷学会北海道支部機関誌

I S S N - 1340 - 7368

北海道の雪氷

第15号



1996年7月

発行 (社)日本雪氷学会北海道支部

目次

卷頭言	1
1996年講演会寄稿	2
1996年度研究発表会講演要旨	7
1995年度事業報告	80
1995年度会計報告	83
1996年度事業計画	85
1996年度会計計画	86
1996年度北海道支部役員名簿	87
社団法人 日本雪氷学会北海道支部規約	88

(表紙 画：斉藤新一郎、 題字：福沢卓也)

巻 頭 言

北海道大学低温科学研究所 前野 紀一（支部長）

去る4月25日の支部総会において支部長を仰せつかることになり、その責任の大きさを感じて恐縮しております。私の力はもとより微力にすぎません。支部会員の皆様の御協力を得ながら支部の発展のために努力するつもりですのでよろしくお願い申し上げます。

日本雪氷学会は3年前に法人化され、新しい時代に入りました。その中で北海道支部が果たすべき役割はどんなことでしょうか。これは、それほど単純な問題ではありませんが、雪氷学会の特色であります「多様性」あるいは「学際性」がヒントになるのではないかと思います。雪氷学会の多様性の理由は、会員がそれぞれの雪と氷に対する科学的興味、工学的興味、文学的興味、あるいはなんらかの個人的興味を持って入会している点にあると思います。また、学会側はそのために、専門の研究者だけでなく、これらの興味を持っている人すべてに入会を許しています。この点は誤解されやすく、雪氷学会は単なる素人の集まりとか、雪氷学という学問は存在しない、などという人たちがいます。しかし、これは、雪氷学会の多様性の重要性を理解していないための誤解だと思います。雪氷学会が文部省認定の社団法人となったことの最も大切な意義は、この点にあったというべきなのかもしれません。

さて、このような雪氷学会の多様性をもっとも明瞭に反映できるのが、支部活動ではないかと思います。そこでは、各支部の、あるいは各支部会員の特徴ある考えや成果が遠慮なく発表されるといいと思います。全国大会に出す前の中間報告もよいと思います。北海道支部の活動には、これまでも増して北海道独特の雪氷の問題や身近な雪や氷の問題を盛り込んではどうでしょうか。支部会員の皆様からのご意見やアイデアを募集いたします。

御存じのように、今年度の全国大会は9月24—28日北見市において開催されることになっており、現在北見市在住の支部会員を中心に準備が着々と進められております。全国大会は各支部が関わる重要な事業のひとつではありますが、特に今年は研究発表予稿原稿のサイズをA4に変更するとか、あるいは研究発表最終日の発表を午後3時には終えて次の見学会につなげる、等々の新しい企画やアイデアが盛り込まれています。直接準備を担当される会員だけでなく、支部会員の皆様のお力も得て全国大会を成功させたいと思います。どうか、皆様の暖かい御協力をお願い致します。